

グローバルソーシャルワーク： 世界のソーシャルワーク実践

国際社会において、今求められるソーシャルワーク

木村真理子 日本女子大学名誉教授

一般社団法人国際ソーシャルワーク協会代表理事

国際ソーシャルワークと自己紹介

アメリカの障害者自立運動の当事者たちを1982年に招聘、ILセミナーを日本各地で開催

日本のソーシャルワーク大学院で学び～世界のソーシャルワークを学ぶためにカナダ・オンタリオ州のソーシャルワーク大学院(WLU: Wilfrid Laurier University)～移住者・難民、先住民の精神保健の課題を中心に研究・実践

精神保健福祉士、日本ソーシャルワーカー連盟(JFSW)の国際委員として活動

IFSW(国際ソーシャルワーカー連盟)アジア太平洋地域会長、グローバル組織第1副会長(2014年～2018年)

現在はIFSWソーシャルワーク教育諮問委員(アジア太平洋地域代表)

『国際ソーシャルワークを知る——世界で活躍するための理論と実践』(木村、小原、武田共著)を出版(2022年3月)

2023年6月一般社団法人国際ソーシャルワーク協会を設立、国内外の専門職の育成プロジェクトに従事

グローバル化に対応して： 国際ソーシャルワークのテキストを出版

国際ソーシャルワークを 知る

世界で活躍するための理論と実践

木村真理子、小原真知子、武田丈 = 編著



中央法規

2022年3月発刊

編者：木村真理子、小原真知子、武田丈

出版社：中央法規出版

定価 2700円

国際ソーシャルワークにかかわる組織： IFSW（国際ソーシャルワーカー連盟）とIASSW（国際 ソーシャルワーク教育連盟）そしてICSW

IFSWはソーシャルワーカー（実践者・研究者・教育者）で構成される、世界のソーシャルワーカーの数は登録組織に属する人数は300万人

（IASSWは主としてソーシャルワーク教育者で構成、個人加盟が多い；ICSW（地域加盟だが、加盟組織が限定的）

IFSWは、発足当初く1930年代国際交流、情報交換などを目的に発足。

今日、IFSWは設立当初とは異なるより幅広い役割あが求められている。

グローバリゼーションによって生じる複雑な社会・政治・生活問題に、世界のソーシャルワーカーはかかわっている。

**世界のソーシャルワーク：
IFSW：世界を5つの地域に分けて組織化している
アジア・太平洋、アフリカ、北米、中南米・カリブ
地域、ヨーロッパ**

今日のグローバルな現象を理解しつつ、共時的な視点
で世界のソーシャルワークを見る

キーワードから見る現在の世界・社会

グローバルとローカル⇒グローカル

グローバル化の進展とともに

ローカルな組織や人々(国内の実践者)も、グローバルな課題に対応する事案が増加

グローバル vs ローカル 世界の課題、国際課題
が国内の課題に⇒ グローカル

政治化するソーシャルワーク：地域により特性 (課題やアプローチ)に特色がみられる

国や地域によって「政治化」の意味は同じではない

グローバル定義が示すように、ソーシャルワーカーは社会正義、平等、エンパワメントを目指している。こうした価値は、政治の在り方と無関係ではない

人権や社会正義を運動やプロテストにより獲得してきた歴史を反映
アジアは？

グローバリゼーションは負の影響を多くもたらしているか？世界の紛争が私たちが生きている記憶にある中で激化している？

世界のソーシャルワークの特色～世界の歴史が影響～ SW専門職養成に変化

植民地政策の歴史——指摘はグローバル定義の改訂〈2014〉に反映
宗主国の影響と被植民地の状況

植民地時代宗主国のSWや制度を移植⇒独立⇒モデルが実情にそぐわない
先進国「制度に基づく治療的ソーシャルワーク」vs

開発途上国「その地域本来の課題解決の方法・大家族主義の特徴など：
地域の力を結集して対応」

現在Indigenous Social Work : 地域の政治文化社会経済風土の再評価と
実践への導入⇒の発展～ ‘Ubuntu’ あなたがいて私がいる(マンデラ)

アジアのソーシャルワーク： 私たちが生活している地域とソーシャルワーカー— 貧困と民主化が課題

都市の爆発的な人口増

大気汚染や水質悪化⇒水や住環境への影響

騒音、ごみ問題、下水問題

エネルギー消費の過多

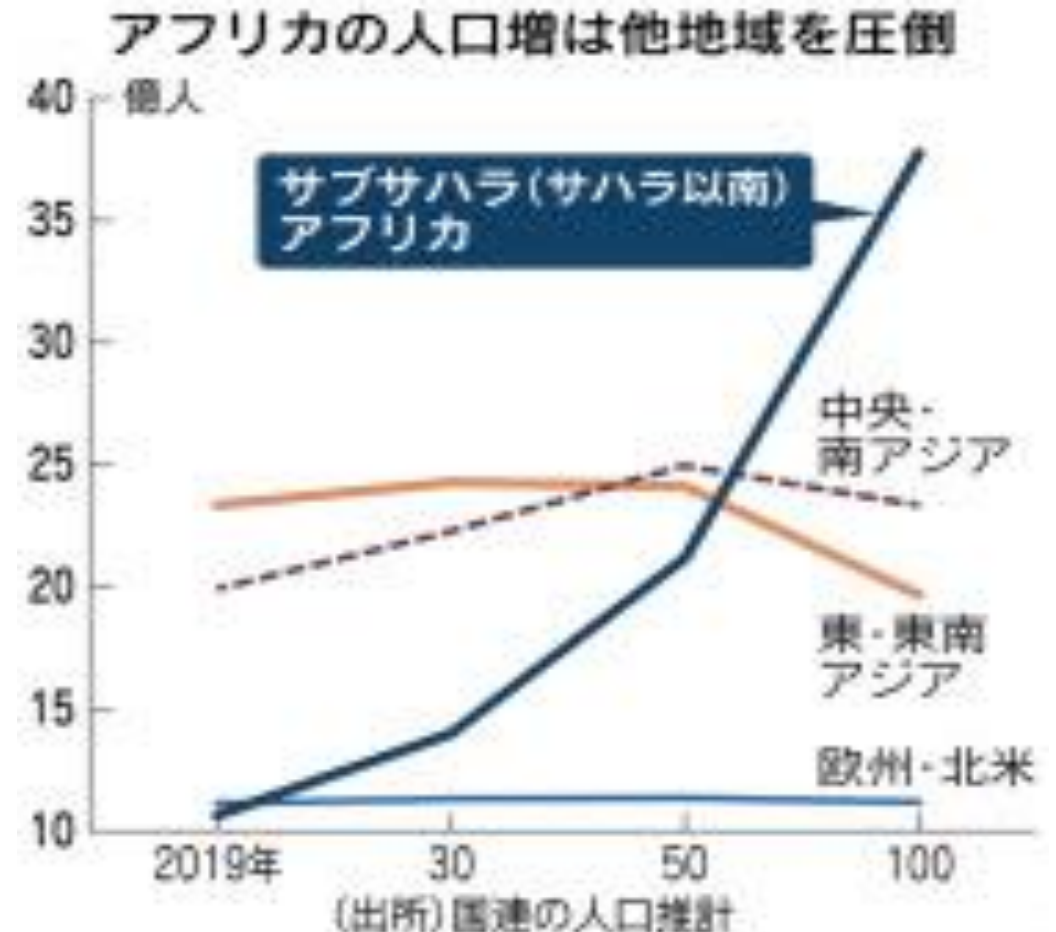
多文化、多言語

取り残される遠隔地や農村

伝統—少女結婚、児童労働

災害：災害多発地域

地域に適合するソーシャルワークの模索



アジアの人口増と課題：都市への人口移動

スラムの形成

地方の貧困、荒廃

高齢者と子どもが地方に取り残される

世界の3分の2の貧困層が南アジアに集中、

貧困層の80%が農村、貧困の再生

開発途上国のソーシャルワーカーの役割

政府・政治に対する環境問題のプロテスト、住民を巻き込んだ活動

インドの災害防止、水問題

スリランカの漁村での抗議運動

農村女性のエンパワメントとスモールビジネスの開発支援

アジア : 2つのタイプのソーシャルワーク

先進国のソーシャルワーク: 社会福祉制度に基づく
実践、予防的アプローチに転換

開発途上の国々: 直面している状況、惨事の直後から
その後の救援活動、事後対応、リハビリテーション

インド世界の第2の人口を擁する社会の課題

ソーシャルワーカー養成機関の数と養成人数はアジア最大

インドのソーシャルワーカーの活動

- 子どもや家族に対する保護
- ストリートチルドレン
- 人身売買
- 児童労働
- 少女結婚への対応
- トライバルチルドレンの教育や学習支援
- 女性のエンパワメントや職業的自立
- コミュニティ開発
- HIV罹患者への支援
- 社会・環境問題への抗議(プロテスト)活動

アジア・太平洋地域ソーシャルワーク実践の 特色：多様性に着目

社会の安全性と統制のための道具とみなされる場合もある

社会の緊張感：

- ・経済的发展を第1の目標とするのか？
- ・民主的社会的发展を優先させるのか？
- ・西欧で发展してきたソーシャルワークのモデルの適合性
 - 西欧の個人主義とソーシャルワーク実践：市民的不服従や抗議は合法的な手段
 - 集合的な融和を重んじる文化特性；先住民の価値観と共通性
 - アフリカの“Ubuntu”（ウブンツウ）“あなたたちがいてわたしがいる”ともつながる？

教育：ソーシャルワークの土着化と専門職養成の課題（経験を有する専門家による教育）

ソーシャルワークの土着化（インデジナイゼーション）、「民族固有の知」

ソーシャルワークのグローバルスタンダード（GS）の地域への応用と意義

アジア太平洋の状況に合わせて、GSの意味と教育への応用を検討

先住民、小部族、グローバル化の影響、地球温暖化と海面上昇、人口過密、水問題などのSDGs、

ソーシャルワークの実習教育の在り方や国際実習の必要性など

ジェンダー、人権

地域の文化に即したカリキュラム・テキストの開発、教育・訓練

誰が何を教えるのか（**カナダでは先住民のSWは先住民が教えている**）

ラテンアメリカのソーシャルワーク

アメリカやヨーロッパの影響、植民地政策を批判、専門職組織は政治的な力をもって体制を変革するとの実践活動——多様なソーシャルワークを包含し独自性を創出

専門職と社会のありようは政治と直結しているとの認識

専門職は政治活動を通じて専門職の価値を実現させるのが当然

ラテンアメリカのソーシャルワーク

解放者としてのソーシャルワーク（植民地主義・管理的なSWからの脱却）

1960年代半ばに「再概念化運動」が現われる

「伝統的ソーシャルワーク」を強く批判した

世界やラテンアメリカにおいて起きた大規模の歴史的な変化に影響を受けた



ラテンアメリカのソーシャルワーク

制度的及び管理主義ソーシャルワーク

1980～1990年代のソーシャルワークへの理論的な影響:

構造機能主義

マネジメント理論

システム理論

社会管理

国際的な金融機関

専門的な実践の特徴:

テクノクラシー、個別主義、非政治的

手段的・操作的な方法論

「何をする」や「誰のためにする」よりも「どのようにする」に焦点を当てる。

社会問題は社会システムからの「異常」、「病理」、「逸脱」として捉えられた。

「社会変革」は個人や家族が社会システムの機能へ「矯正」や「適応」することとして捉えられた。つまり、社会的な対立を避けるために、社会統制によって社会的な支配を深めた専門的な実践であった。

ラテンアメリカのソーシャルワーク

現代のソーシャルワーク

2000年代から現在に至るまで、ラテンアメリカのソーシャルワークは改めて強い政治的な側面をもっている。

社会問題と現行の社会秩序に対する批判的な見方を再び取り戻した。

専門的な実践は社会介入として捉えられる

社会介入は、主に領域、社会運動、大衆層、社会組織に焦点を当てる。



ラテンアメリカのソーシャルワーク

社会的な対立



異常や社会システムからの逸脱

専門的な実践はより広範囲の専門的な取り組みに結び付き、そしてそれらが社会的な取り組みにつながる:

- ・ 専門的なパワーが形成される場
- ・ ソーシャルワークが専門職として認められる場

- ・ ソーシャルワーカーを代表する場
- ・ 専門職のヒエラルキーを形成する場

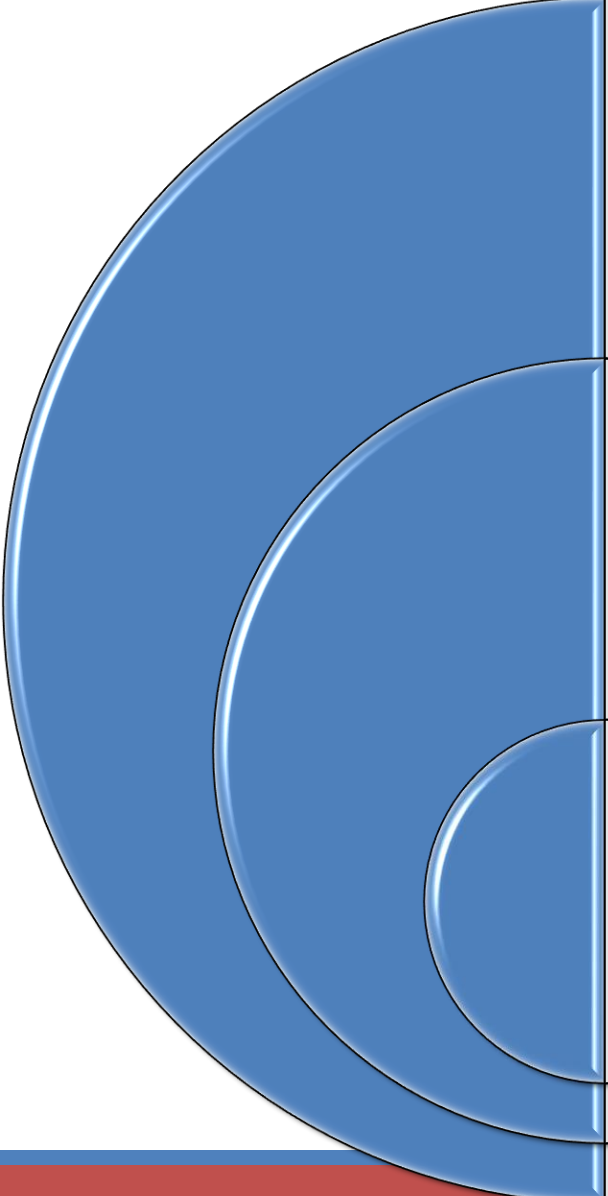
- ・ 専門的なアイデンティティがエンパワーされる場
- ・ ソーシャルワークの貢献が可視化される場

- ・ ソーシャルワーカーが研修を受ける場
- ・ 同僚の労働基本権をアドボケートする場

- ・ 人権をアドボケートする場
- ・ 人権侵害を訴える場

ソーシャルワーク
団体(連盟・協会)
が重要な役割
を果たす

ソーシャルワークの政治化



「ソーシャルワークの政治的な次元」の可視化

- 専門的な実践は中立的ではない！

倫理的な責任の自覚

- 専門的な実践において
- 知の生産において

もっているパワーの自覚

- 人々の解放と自立形成
- 人々の管理と支配

ラテンアメリカのソーシャルワーク

多様多彩なソーシャルワーク

今日、ラテンアメリカでは一つのソーシャルワークを語れない。

ソーシャルワークを考える・実践するあらゆる方法がある。

しかし、他地域と区別できる共通の特徴がある：

- a) 社会問題に対する歴史的、政治的、包括的なアプローチ；
- b) 専門職の政治化；
- c) 社会秩序の形成、再生産、変容における国家の中心的な役割；
- d) 専門職の大衆層と社会運動との結びつき；
- e) ソーシャルワーカーの動員、闘争、抵抗する能力；
- f) ソーシャルワーカーの労働者階級としての自覚。

ヨーロッパのソーシャルワーク

ヨーロッパは植民地時代以降、世界各地に影響を色濃く残した

植民地時代の影響は移民となって相互に影響をもたらしている

労働力としてヨーロッパに移住した人々が高齢化

植民地とヨーロッパ各地を往来、グローバルシティの構築にも影響

保健医療問題に影響

地域サービスの創設に移民がアイデアを提供、地域に根付いて生活・老後を送るために

現在のヨーロッパの社会問題

若者と高齢者の失業問題

労働搾取(自由契約と低賃金労働)

地域全体における公的セクターの民営化傾向

貧困問題とEU諸国間の所得格差拡大

難民のグローバルな移動

社会的講義運動の増加

自然(気候変動の影響)災害 ▶ 人災

原油流出、火災、水害、地震

ヨーロッパのソーシャルワーク

ヨーロッパ共同体(EU)は、東欧と西欧の間の統合を1989年から模索してきた

新自由主義、ポピュリズム、市場主義促進の動き

多面的な方向に福祉国家を変容させる動き

ソーシャルワークの仕事にも影響

国の政策、国の法制度、市民社会の文化と伝統、多様な歴史

ソーシャルワークの仕事: ローカルと国際の専門職

ソーシャルワークのテーマ（のひとつ）

ヨーロッパの移民の高齢化の問題

過去40年間に移民の数が増大

21世紀の20年間で、高齢移民や民族グループの数は2倍に

背景：労働移民の高齢化、再統合政策、高齢は移民の増加、人口動態の変化、平均寿命の伸長

ヨーロッパ社会の新たな人口構造

ヨーロッパの大都市はスーパーグローバルシティに変化

高齢者移民と受け入れ先の高齢者のニーズは異なる

多様なニーズ: 言語、文化、孤独感や孤立感、緊縮財政による貯蓄の減少、社会的排除が生じる可能性、移動中に生じる健康問題(健康リテラシーの低さ)、生活の質への影響、心理社会的なせい弱性、差別、多文化社会に対応する政策やソーシャルワークの模索

移民の背景: トルコ、アフリカ、南米諸国から労働移民としてヨーロッパに定住した人々

移住者の健康を支える: ユニバーサル・ヘルス・カバレッジが課題(世界の課題でもある)

ヨーロッパのSW 移民の高齢化と新たな ソーシャルワーク

当事者自らがソーシャルワークの担い手となる

地域で経験の長い移住者にボランティアを含めて支援プログラムの企画や実践に参加を促す

新たなプログラム例：移住者自らの経験を生かしたプログラムを生み出している

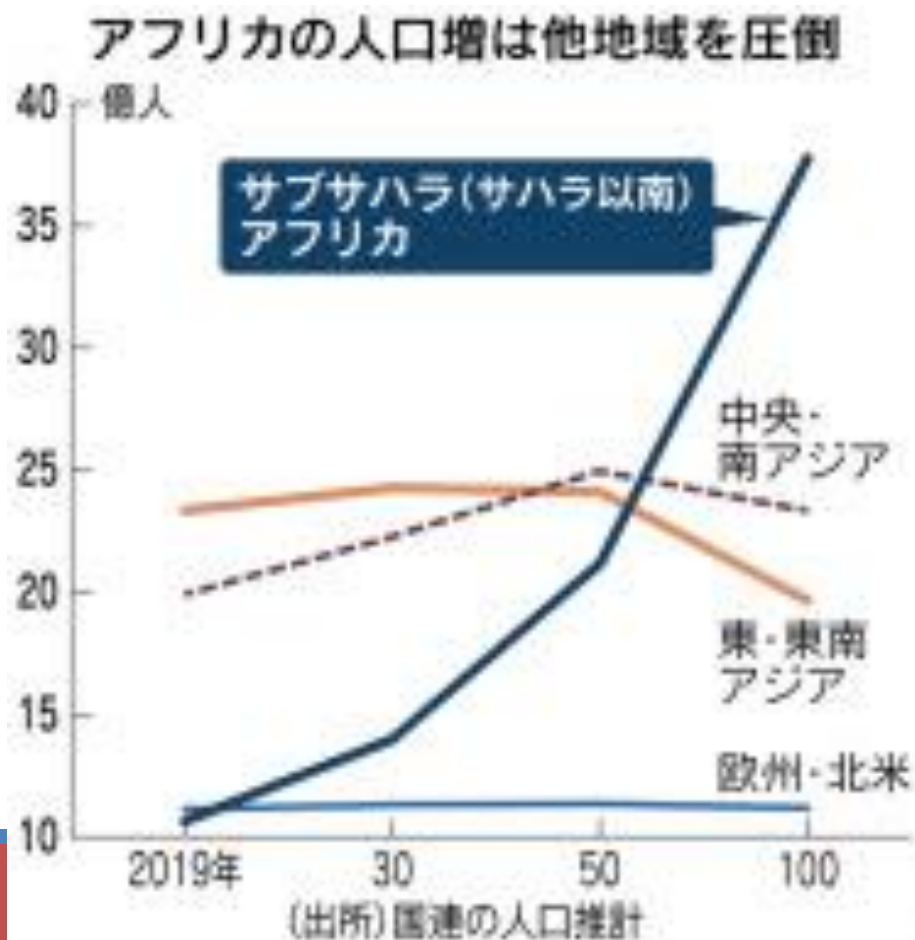
アフリカの人口とアジアの人口：21億人に倍増

地域別で人口増のペースが最大なのは、サハラ砂漠以南のサブサハラアフリカ（国連最新予測）

他地域に比べ高い出生率を保ち、2019年時点の10億6600万人から50年には21億1800万人に倍増。

2100年には約38億人
世界の人口の3割強を占める見通し。

出所：日本経済新聞（2019年6月21日）



アフリカの人口 21億人に倍増 変わる人口地図

国別の人口：

ナイジェリアが19年の2億人から100年には7億3300万人へと大幅に伸びる。コンゴ民主共和国も同期間に8700万人から3億6200万人まで増えるの見込まれる。

人口急増に伴う課題：経済成長率が追い付かなければ、1人当たりの所得は減少。

雇用を創出が課題：できなければ社会不安の火種となる。

人口流入：農村から都市への人口流入で消費拡大が期待できる半面、インフラへの逼迫：電力、水道、交通網といったインフラの逼迫、公衆衛生の悪化も懸念。

出所：日本経済新聞（2019年6月21日）

アフリカのソーシャルワーク： 植民地政策の影響による弊害、貧困、土地の荒廃、人口 問題、社会・生活問題、人口移動

種々の歴史的課題から、持続可能性を担保する**開発型ソーシャルワーク**への**転換**を図ろうとしている

「**持続可能性と発展を求めるソーシャルワーク**でなければ、社会の発展は望めない」

土着 (Indigenous) の伝統・文化を反映したカリキュラム、教科書を進行中

政府役人や体制側は**変革**や人々の生活への**適合性**を優先せず

NGOや外国のNGOは地域開発モデルに焦点化

アフリカ地域の課題

人口8億5632万7157人 (2010) [\[2\]](#)。アフリカ全人口の83.8%である。

貧困層がサブサハラに集中

貧困・飢餓 アフリカは、2015年時点で、
貧困層の半数強がサブサハラ・アフリカに集中。
アフリカの41.1%が国貧困ライン以下

(1日1.9ドル以下) で生活。

後発開発途上国 (LDC) : 34カ国

1人あたり国内総生産 (GDP) : 745ドル (2005年) *

国内総生産 (GDP) 年間成長率 : 4.3% (1998年~2006年)

1日1ドル未満で生活する人 : 全人口の41.1% (2004年)

飢餓率が35%を超える国 : 18カ国



1. [United Nations Statistics Division- Standard Country and Area Codes Classifications \(m19\)](#)

2. [UNDESA: World Population Prospects, the 2010 Revision: Total Population - Both Sexes](#)

アフリカ：紛争の頻度や状況

多くの国や地域において、長期にわたった内戦や紛争が終息傾向にあり、民主的選挙や憲法の国民投票の実施、国連平和維持活動（PKO）の任務完了等、開発の土台である平和と安定への第一歩が踏みだされ、和平・民主化プロセスが一層進展している。

他方、未だ紛争が継続している地域があるほか、多くのアフリカ諸国では、その平和は依然として脆弱。

（データ）

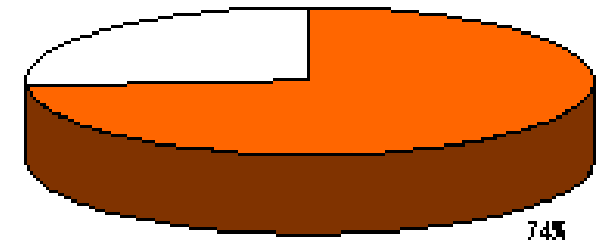
国連安保理：安保理決議の5割超がアフリカ情勢（2006年）

国連平和維持活動（PKO）：予算、人員の約7割がアフリカ

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の援助対象者数：

517万人（全体の24.9%）

PKO経費に占めるアフリカの割合(2006/07年)



アフリカ 保健・医療・教育の課題

平均寿命：男性：48.8歳 女性：50.2歳（2005年）

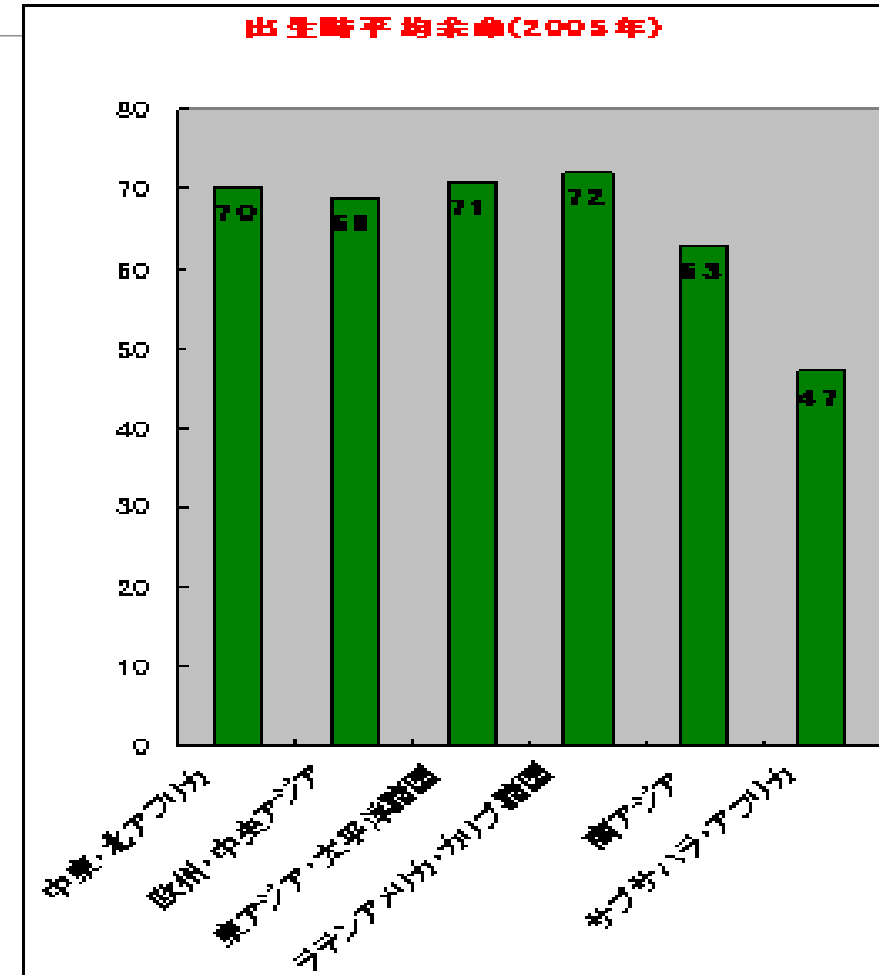
エイズ（HIV）：感染率上位10ヶ国全てがサブサハラ・アフリカ（2005年）

15-49歳人口の5.9%が感染（2006年）

初等教育学齢期で学校に通っていない児童4550万人（2002年）

（世界全体の43.0%（2000年））

15歳以上の識字率 63.3%（2004年）



アフリカ持続的・開発型ソーシャルワークへと転換の途上 家族・近隣の対応から社会的対応へと変化

アフリカのソーシャルワーク実践の背景

伝統的なアフリカ社会：社会的ニーズや問題への対処は、肉親や大家族により対応

貧困・病気、死などの問題処理：ソーシャルワークの専門家を雇用するのではなく、家族、血族、一族により対応、隣人の介入も。

宗教団体による民間組織も社会的ニーズを満たすのに貢献

今日：どの国にも、社会福祉省や社会福祉局が存在

政府レベルでの政策、計画、プログラム立案がなされている

しかし、社会福祉財源の不足、政府のサービスの不足を補うため

NGOや民間の働きに多くを依存

変化への課題：SWモデルが植民地時代の政府機構が依然として支配的

ソーシャルワーク実践の方法—個人に焦点化、治療的、対症療法的、矯正的、問題対応型方式を維持

有限な財源、人材、システムの未開発さ

ソーシャルワーカーの役割：人々を解放、エンパワメント志向、問題の解決策をみつけるため、最前線で働く可能性を持つ

ソーシャルワーク教育の実践モデルからの転換

社会開発パラダイムの採用が必要

変化を求められる**アフリカ**のソーシャルワーク

アフリカの社会福祉部門：西欧志向のソーシャルワークを採用・維持

矯正施設、病院、警察、国防軍、産業界などで働き、伝統的なモデル(改善的・矯正的アプローチ)を維持

NGO：コミュニティー・ワークの手法を採用

ミクロソーシャルワークの戦略は、アフリカの状況に適合していない：文化、貧困レベル、社会の構造的問題、社会的・経済的な現実に対する認識が十分でない

アフリカの文化に即したソーシャル ワークの模索が始まっている

手段をえらばない手当を含む公的援助：伝統的なアフリカのコミュニティの代名詞である互恵性を認識していない

その介入やプログラム：事実上効果をもたらさない

救済的アプローチ：個人の病理に集中して効果なし

多面的・複合的、問題の拡散性のある課題：社会問題と関連する失業、住宅、ホームレス、識字問題、病気、無知などに起因するもの

開発型ソーシャルワークへの転換

パラダイムの転換：開発型ソーシャルワーク

もし開発がなければ、ソーシャルワークは重要ではない。人々の問題を解決しなければならないのであれば、ソーシャルワークだけでなく、開発のためにも働かなければならない。ソーシャルワークが効果的であるためには、持続可能でなければならない。

人々が自立し、自助努力をすること、それが、開発なのであるから、ソーシャルワークは、開発のもう一つの側面なのである。(Letterier, quoted by Worku 2009)

開発型ソーシャルワークのアプローチ

貧困に取り組むということは、開発に取り組むということであり、そこには関連性がある。したがって、アフリカのソーシャルワークが成功を収めるためには、パラダイムシフトが必要である。

このアプローチは、人々の解放とエンパワメントに向けて働くだけでなく、やむを得ず援助を頼っていた人々の自立を促進するものでもある。

アフリカのような発展途上の大陸では、ソーシャルワークを取り巻く問題は子ども向けのサービスから大人向けのサービスまで多様で膨大な数に及ぶが、これらは社会開発のアプローチによって改善させることが可能であるとこれまでの世界の実践技術を成果から予測される。(Worku, 2009; Umoren, 2016)

開発型ソーシャルワークと福祉モデル

アフリカ: 大家族主義やコミュニティによる非公式なサポートを提供する機能により、コミュニティの強さも弱さも含めて包含的に支援する機能をコミュニティが提供する

先進国の社会福祉: 脆弱性や突発的な事態、貧困状況への対応のセーフティネットを想定

開発途上国のモデル: コミュニティの機能+NGOの支援+自国財源による支援の組み合わせ

福祉モデル: 多面的、他部門的なアプローチで、政府、非政府、民間の連携により、福祉への依存を抑制、政策立案やプログラム開発への人々の積極的な参加を促進

北米のソーシャルワーク

グローバル化の影響 (IFSWグローバルアジェンダ)

経済状況の下降傾向、社会サービスの需要拡大、コロナ感染拡大による影響

人口の高齢化

アメリカ: 2020年には6人に1人が65歳以上、人口動態がソーシャルワークに及ぼす影響

北米のソーシャルワークの課題: 移住と人口移動、犯罪と暴力、ジェンダーベースの暴力、人種問題、環境における正義、薬物乱用

北米 移民へのソーシャルワーク

同一主務官庁による長期的視野に基づくかかわり: 定住支援とソーシャルワークの統合

コミュニティへの統合を含む社会開発型アプローチ、多セクターへの働きかけとコラボレーション

教育との連携: 利用者のライフサイクルを踏まえた支援

社会統合モデル: 資金基盤の開発、企業を含め、コミュニティ開発を含めたソーシャルワークのかかわり

北米(アメリカ・カナダ)のソーシャルワーク 世界各地からの移民と先住民に対するソー シャルワーク

世界各地からの移住者が増大、民族の対立や競合

難民や移民の受け入れと現地での住民の摩擦

古くからの移民(白人)の占める率が減少

南米からの移民や各国政府との移民受け入れ・経済
交渉の複雑化

北米のSW 移住と人口移動

2019:ベネズエラから、トリニダード・トバゴ政府に、5万人の移住申請
慢性的な経済社会危機による国外脱出を正規、非正規希望、申請者
には執行猶予付き、1年間の定住と労働許可

○人口移動に伴うリスク:人身売買、子どもの移住では、家族との別
離・居住状態の変化、スティグマ、差別が受入国で予測される。

○教育機会の制限等、脆弱性のある対象への影響懸念

カナダへの移住申請:アメリカへの移住申請を拒否された者の第三国
協定の申請先、永住許可申請、家族によるスポンサーシップと市民権
申請

北米(アメリカ) 貧困問題

アメリカ合衆国: 10%の富裕層が国家の70%の富を所有、1%が全体の富の32%を保有。

カナダ統計局: 所得平均は、2017と2018で推移なし(統計国報告)

子どもの貧困率: 2012年の100万人から25万6千人への減少(8.2%を記録、統計局)。

女性単親対単親貧困率は、16.2%対5.8%。単身高齢者: カップルの貧困率: 7.9%対1.7%。

全米ソーシャルワーカー協会調査： ソーシャルワークアプローチに必要な要素

コミュニティ組織化と開発

貧富の差の是正

政治構造への働きかけ

移民と移住

保険とヘルスケアシステム（アメリカ合衆国は国民皆保険制度が
確立していない）

グローバルな政治活動

北米 移民へのソーシャルワーク

難民や移民が世界各地から北米大陸に到達する地点にアメリカとカナダの2国がある

難民と移民のメンタルヘルス、社会適応に係る課題を提起する

ソーシャルワーカー養成に係る教育的な課題、グローバルなソーシャルワークの課題がより具体的に報告される

移民へのソーシャルワークの長期的関わり: 移住当初の定住の課題に加え、長期の滞在に連れて生じる生活の変化、高齢化の課題、

移住者のエンパワメント: 移住先で力を発揮するための支援(エンパワメント)と移住先のコミュニティへの貢献

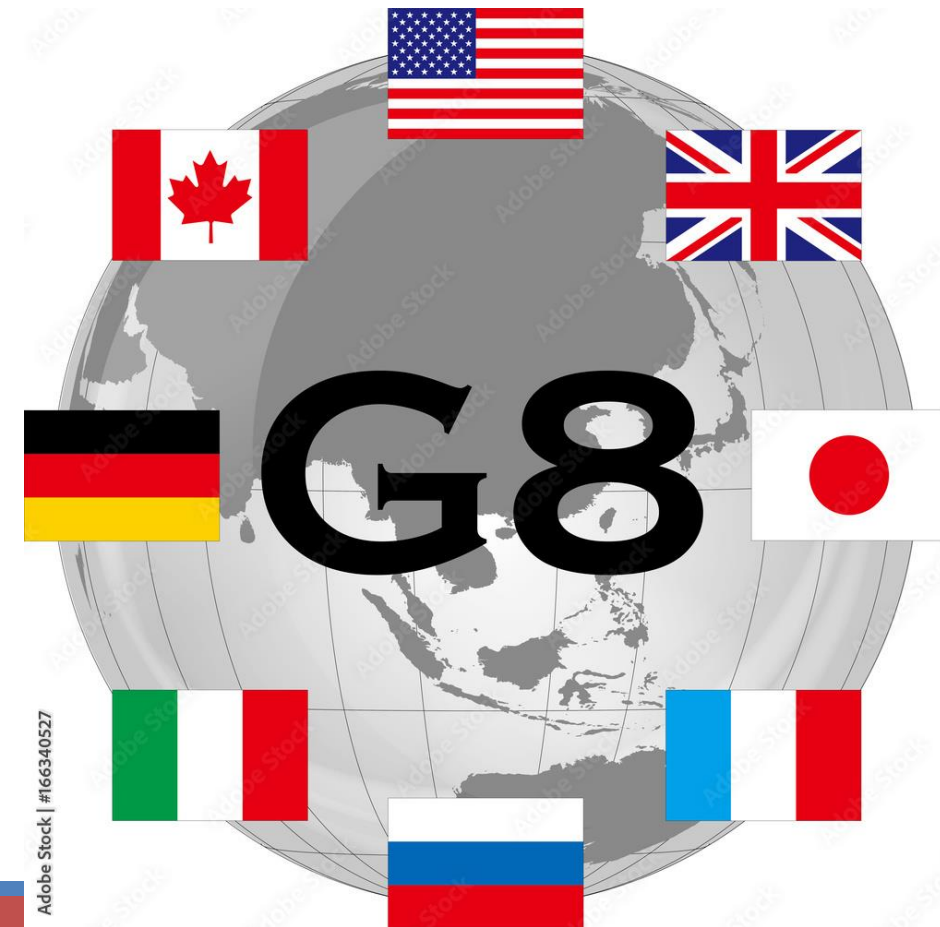
カナダの国家政策と思想

多様な発展、成長、強みは移住者と共にある

カナダ多文化主義 (Multiculturalism) vs
アメリカ文化多元主義 (cultural pluralism--Salad bowl)

2001から2011まで: 移住者人口は、すべての州と準州で、平均200,000人以上、難民は25,000人にのぼる。

カナダの移住者人口は、毎年、G8で最大(20.6%) (日本、アメリカ合衆国、イギリス、カナダ、ドイツ、イタリア、フランス、にロシアを加えた8か国)



カナダ近年の変化： 移住者の出身国や健康状態の動向

1961年のデータ：移住者の90%はヨーロッパ出身

2011年のデータ：ヨーロッパ出身者は15%に減少

カナダの人口は、200以上のエスニシティ(民族背景)から構成されている

そして、これらの人々の3分の1のみが、自らをカナダ人(Canadian)(1060万人)であると称している。(2011年の人口統計)

ヨーロッパ移民の中では：ドイツ系(320万)、イタリア系(1050万)、ウクライナ系、(120万人)、オランダ系(100万)、ポーランド系(100万)、

混合と答える人々が人口の20%に上る

このうち、61%が東南アジア系、中国系、または黒人と答えている

南アジアを母国(インド、ネパール、バングラデシュ、160万人)が**最大**

カナダ言語の多様性 — 200以上の言語(2011年統計)

公用語は英語とフランス語、先住民の言語、そのほか

フランス語を話す人々: 770万人 (23.7%)

580万人はバイリンガル(英語とフランス語を話すことができる)

680万人は、公用語以外の母国語を持つ

世界的人口移動に伴う精神保健の課題 ～カナダの移住者の例から～

これまでの移住者の精神保健研究: 移住後7年までは、移住者の精神保健状態は良好と報告されてきたが

「移住者の健康効果(healthy immigrant effect: 移住7年以降は消失

特に、人種化された集団(racialized groups)

国際調査報告データによる顕著な傾向: 精神病、薬物使用問題、移住者・民族グループによるサービス利用の低下

カナダのデータ

1. 難民の勾留集団(平均17.5日)一時勾留のない集団と比べて——PTSD(31.97%高い>18.18)、抑うつ(77.87%高い>51.52%)、不安(63.11%高い>46.97%)
2. 16歳から25歳のグループの薬物使用: 上記と類似傾向(特に東南アジアGp>中国Gp)
移住者グループ(東南アジア)の不安神経症(3.44%)>カナダ生まれの東南アジアGp(1.09%)
3. 近年の移住者の抑うつ状態はカナダ在住者と類似傾向、滞在が長期化するとうつ状態傾向は多少高まるが、さらに長期になると平均化する

カナダ社会的要因:リスク回避や保護への寄与

1. 収入や社会的地位
2. ソーシャルサポートネットワーク
3. 教育と識字率
4. 雇用状況や労働状況
5. 社会的環境
6. 物理的環境
7. 個人的健康習慣とコーピングスキル
8. 健康な子どもの発達
9. ヘルスサービス
10. ジェンダー
11. 文化
12. 年齢
13. 移住
14. 差別
15. 言語

上記以外に

1. 被害や暴力からの安全性
2. 親の精神保健や薬物使用問題
3. 食物(確保または欠乏)
4. ケア提供ないし家族の健康問題の負担

グローバルソーシャルワークとクライアントをめぐる動向

今日のソーシャルワーカーが共に働く相手との関係をどう見るか——ソーシャルワーカーは仲介者、触媒の役割

アフリカ、アジア、などの開発途上国でのソーシャルワーカー——環境問題について政府にプロテスト(水や環境改善への住民参加、SWrと住民との共同、地域女性の保健活動や小ビジネスによる家族の認識変化、アフリカのコミュニティ開発に地域ぐるみで参加)

移民大国北米: 移住者の意向をくみ、新たな移住者に経験のある移住者が支援を提供

ヨーロッパの移民、移住労働者の定着と高齢化問題、元の移住者がサービスの企画運営に参加

・アフリカ: ひとりの子どもを育てるのに、コミュニティ全体がかかわる “ウブンツ”(あなたがいてわたしがいる)の考え方でコミュニティを形成する

今日の世界のソーシャルワーク： 地域の特色と世界の共通性

持続性を維持する方法：先進国も開発途上国も、持続可能な方法を模索している

方法とは：当事者（サービスを必要とする人）が主体的に参加する

持続可能性を求めて、開発型（地域開発）に、自分の文化にもとづく強みを生かして参加する

支援を受ける側から、自らが担い手となる（経験を持つ専門家との位置づけ）

主体的にコミュニティ開発に参加

多面的なソーシャルワーク

社会福祉分野の組織だけでなく、地域の多様な資源（教育、ビジネス、年齢も多様な人々）を含めて参加を促す

グローバルソーシャルワークのモデル

開発を志向 持続可能でなければならない

コミュニティが主体 コミュニティの人々は経験を有する専門家

ソーシャルワーカーは仲介者としての役割

持続可能性と発展を主要理念とし、組織化や事業の形態をこれに合わせて検討してゆく

時には福祉モデルとの組み合わせも必要

ソーシャルワーカーに係る相手はもはや“クライアント”ではない